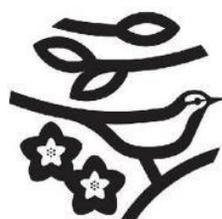


(仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画  
中間のまとめ



令和7年9月



## 目次

---

第1章	(仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定背景	1
(1)	策定目的	1
(2)	本構想・計画の位置づけ	1
(3)	産業ミュージアムを取り巻く資源・価値	2
(4)	本構想・計画の方向性を導くストーリー	6
第2章	(仮称) 産業ミュージアム基本構想	7
(1)	基本理念・基本コンセプト	7
(2)	方向性・主要機能	8

第3章以降の目次を掲載

第 3 章以降の目次を掲載

## 第1章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定背景

### (1) 策定目的

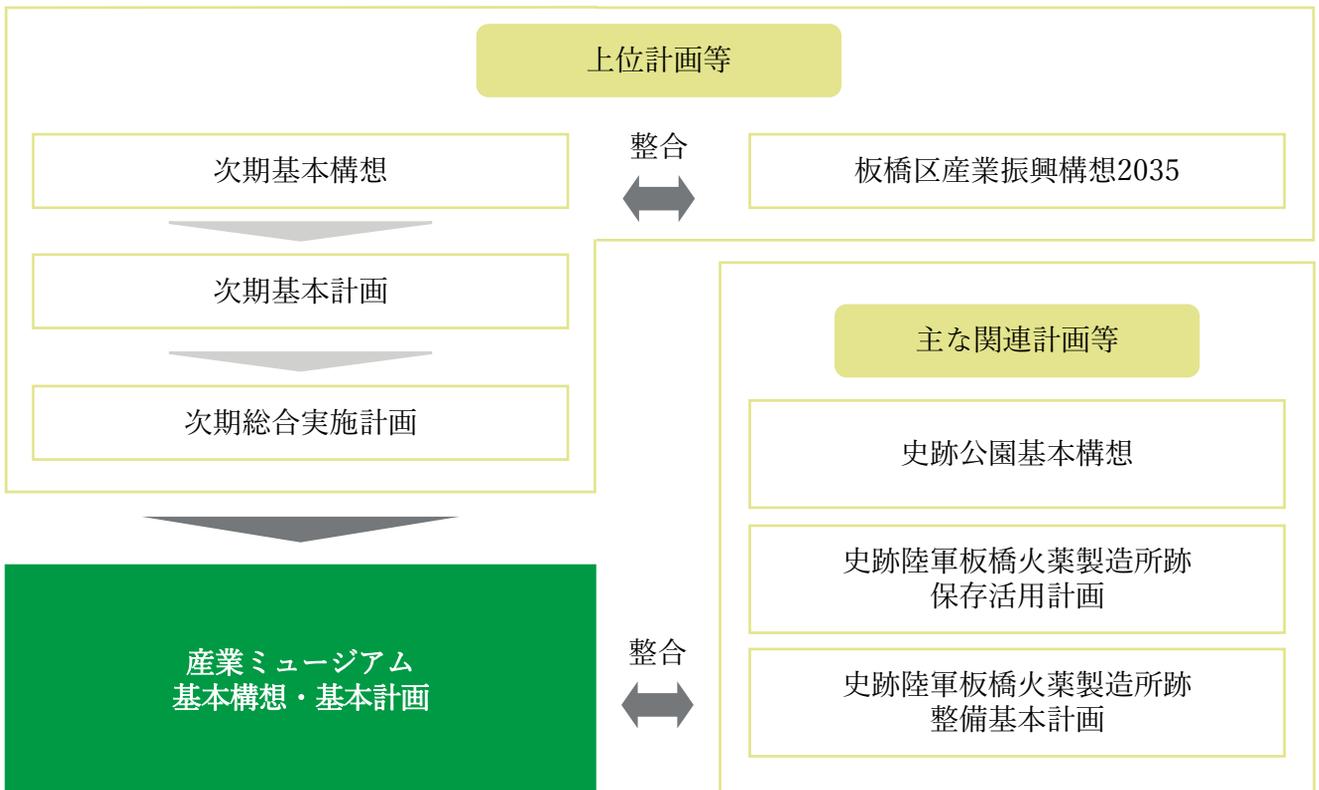
板橋区では、平成29年8月に「板橋区史跡公園（仮称）基本構想\*1」を策定しました。同構想では、板橋区史跡公園（仮称）（以下「史跡公園」という。）の整備と歩調を合わせながら、史跡公園の整備予定地に現存している旧理化学研究所板橋分所（以下「旧板橋分所」という。）の建造物を活用し、「(仮称)産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）」に整備していくことが示されています。

産業ミュージアムの整備にあたっては、旧板橋分所の建造物が持つ文化財的価値・歴史的ストーリーに加えて、今後の板橋区産業の方向性及び整備予定地の現況等を念頭に置きながら、**板橋の産業ブランドの向上に資する**産業ミュージアムの基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理していく必要があります。

令和7年度では、学識経験者、区民や関係団体等の意見を聴きながら、「**産業ミュージアム基本構想・基本計画**（以下「本構想・計画」という。）」を**策定**し、令和11年度中のオープンに向けて、計画的に産業ミュージアムの整備を進めていきます。

### (2) 本構想・計画の位置づけ

「次期基本計画」や「板橋区産業振興構想2035」等の上位計画に加え、史跡公園の整備に係る関連計画等との整合性を図りながら、本構想・計画を策定します。



\*1 板橋区史跡公園（仮称）基本構想

([https://www.city.itabashi.tokyo.jp/res/projects/default\\_project/page/001/032/408/kihonkoso.pdf](https://www.city.itabashi.tokyo.jp/res/projects/default_project/page/001/032/408/kihonkoso.pdf))

### (3) 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値

#### ①整備予定地の立地環境

史跡公園の整備予定地は、板橋区の南東部にあたる**加賀地域に位置**しています。「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」に分かれており、平成29年10月、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」に指定されました。

産業ミュージアムとして整備する旧板橋分所の建造物については、石神井川北側の旧・理化学研究所エリア（板橋区加賀一丁目7番地）に立地しており、**自然と調和した桜並木と遊歩道に面しているのが魅力**の1つとなっています。

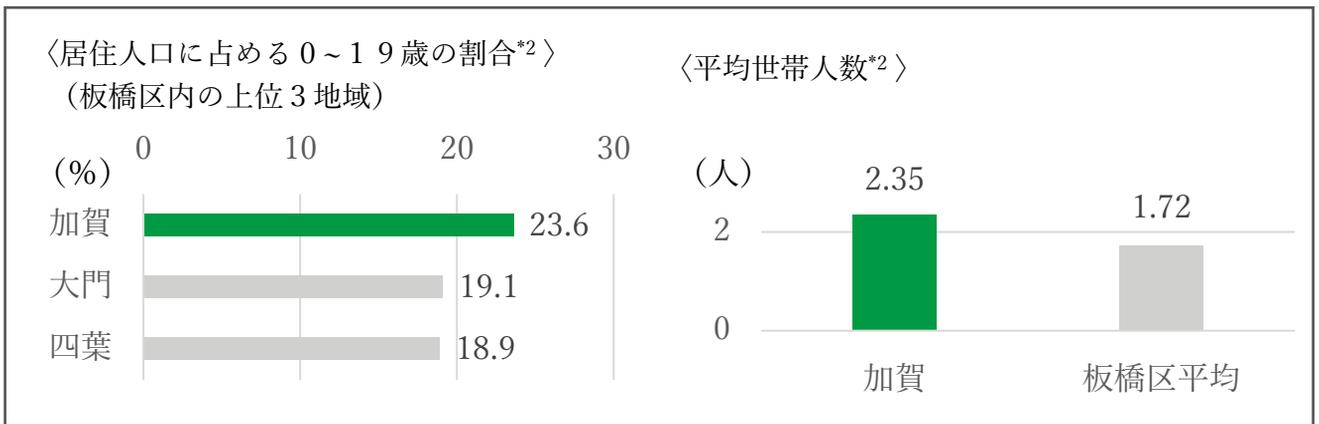
「史跡陸軍板橋火薬製造所跡整備基本計画（令和3年3月）」でも示されているとおり、産業ミュージアムの整備は、旧・理化学研究所エリアに立地している旧板橋分所の建造物のうち、「**物理試験室**」と「**爆薬理学試験室**」を対象としています。



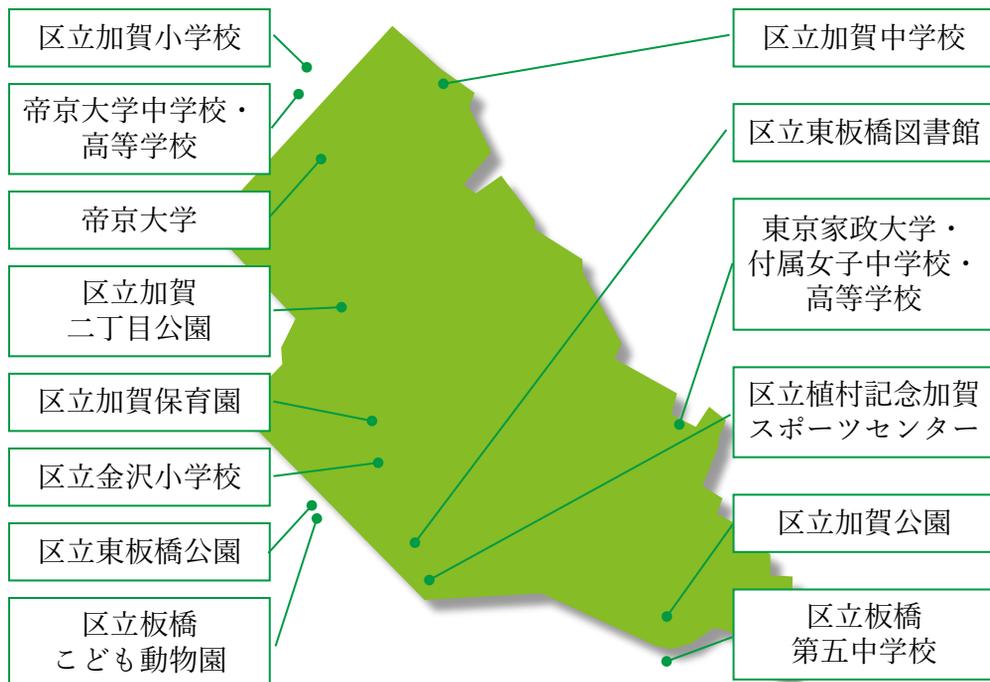
加賀地域は、多くの教育施設と公共施設があり、居住人口に占める0～19歳の割合が区内で最も高いエリアです。

また、平均世帯人数を比較してみると、板橋区平均が約1.7人であるのに対し、加賀地域は約2.4人となっています。居住人口に占める0～19歳の割合も踏まえると、板橋区の中でもファミリー層が集積していることが特徴といえます。

また、史跡公園の整備予定地周辺には、陸軍造兵廠の遺構等の近代化遺産群が点在しているとともに、史跡公園の外周を走る旧中山道沿いには、仲宿商店街や板橋宿不動通り商店街等の賑わい空間も存在しています。



〈加賀地域周辺の主な文教施設〉



【出所】 \*2：「板橋区年齢別人口表令和7年8月1日」（板橋区） 各地域の丁目以降の合計を用いて算出

## ②整備予定地の変遷

産業ミュージアムの整備予定地を含めた板橋区の南東部に位置する加賀地域一帯は、明治9年から昭和20年の終戦まで、近代的な火薬製造所及び研究所が設置されていたことから、その建造物や遺構が群として残っています。

また、戦後復興期の旧板橋分所では、日本の科学技術の進歩に向けた基礎研究が継続的に行われ、先進的な科学技術研究の拠点にもなりました。

平成29年8月に策定した史跡公園基本構想では、当地が有する歴史的背景をはじめとする資源・価値に着眼し、近代化遺産を中心とする都内初の「史跡公園」として保存・活用を行うものとし、「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」を基本コンセプトとして定め、“憩う”“学ぶ”“創る”を基本方針のキーワードとして示しています。

戦前



「陸軍造兵廠火工廠絵はがき」  
火工廠板橋火薬製造所  
《北区立中央図書館所蔵》

- 江戸時代に加賀藩下屋敷が置かれたこの地に、明治政府が初の近代的な火薬製造所を設置したことを契機として、周辺の東京北西部に光学兵器を製造する多数の軍需工場群が形成された。
- 残存している建造物には、爆薬の取り扱いに適した構造も認められ、文化財的価値を保有している。

戦後

写真を掲載

(戦後の理化学研究所の様子など)

- 陸軍解体に伴って火薬製造所の稼働が終了した後、その跡地には現在の公益財団法人野口研究所が入所したほか、理化学研究所「板橋分室（後の「板橋分所）」」が開設された。
- 特に板橋分室では、仁科芳雄博士が宇宙線研究を展開するとともに、湯川秀樹といったノーベル物理学賞受賞者が研究室を構える等、日本の先進的科学技術の研究拠点として研究成果が世界に発信された。
- 戦前に集積した光学産業は平和産業として発展し、「ものづくりの板橋」を形作る原動力の1つとして寄与した。

近年



史跡公園の整備イメージ  
《板橋区史跡公園（仮称）基本構想》

- 区は平成29年8月、史跡公園基本構想を策定し、史跡公園の整備に向けた取組を推進している。
- 近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められ、加賀公園、旧野口研究所、旧板橋分所の敷地が同年10月、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」に指定された。

### ③板橋区産業の現況と将来像

板橋区は工業専用地域を持つ**都内有数の工業都市であり、ものづくり企業が集積**しています。加えて、区内全域に商業が広っており、都内で貴重な農地も保有している等、多様な産業が共存しているのが特色です。

特に、「陸軍板橋火薬製造所」の設置を契機に集積が進んだ**光学・精密機器産業は、区の地場産業として高い技術力**を誇っています。また、交通網が充実しており、多くの物流拠点があることも強みです。

板橋区で策定中の「板橋区産業振興構想2035」では、「**変革**」「**連携**」「**集積**」を基本的な視点として**成長志向の産業育成**に取り組んでいくことを示しています。

また、2035年の新たな将来像はブランド創造に着眼し、「**新たな発見に出会える、ブランド創造都市**」を掲げています。

〈板橋区における製造品出荷額等上位5業種の23区内における順位\*3〉

業務用機械器具製造業（光学・精密機器産業含む）

23区中第1位

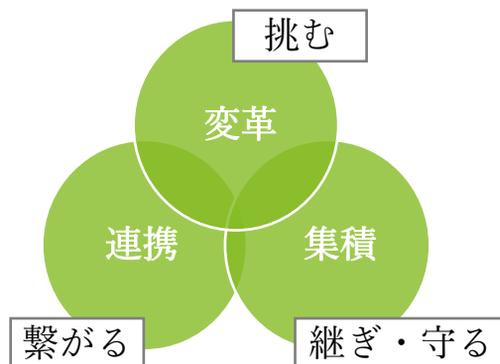
印刷・同関連業  
23区中第1位

食料品製造業  
23区中第2位

鉄鋼業  
23区中第2位

化学工業  
23区中第3位

「板橋区産業振興構想2035」\*4で掲げる  
基本的な視点と将来像



2035年の将来像

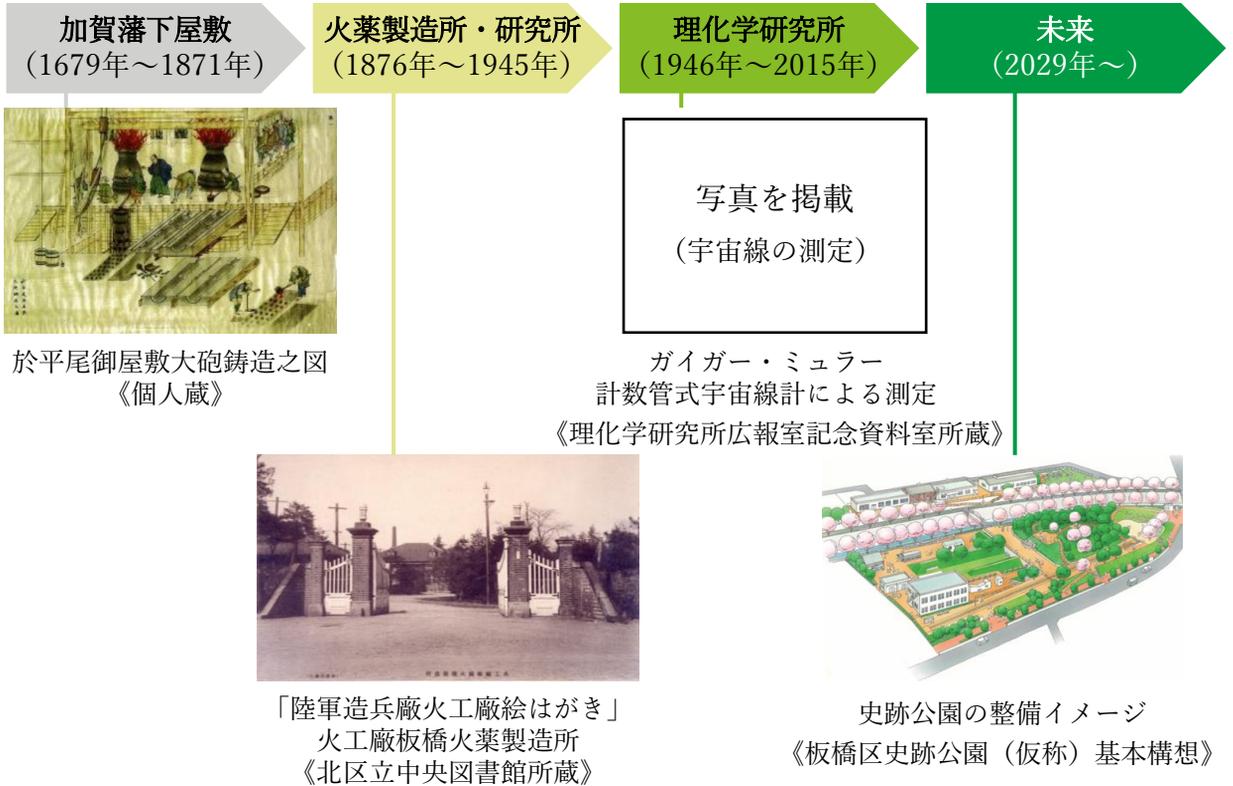
新たな発見に出会える、ブランド創造都市

【出所】\*3：「2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」（総務省、経済産業省）

\*4：「板橋区産業振興構想2035」は令和7年7月現在、策定中

(4) 本構想・計画の方向性を導くストーリー

第1章より、加賀地域で戦前・戦後・近年まで紡いできた歴史と、その歴史に紐づく板橋区産業の発展や先進的な科学技術研究等の有形・無形の創造の軌跡こそが産業ミュージアムを取り巻く資源・価値であると捉えています。



主な取組

- 藩主と家族の保養の場
- 大砲鑄造
- 博物学・園芸学・洋学の実践の場
- 火薬の研究
- 火薬の製造
- 宇宙線の連続観測
- 基礎物理学の研究

研究のバトンを未来へ継ぎ・つなげる

与えた影響

- 加賀藩の発展
- 軍需産業の発展
- 板橋区産業の発展（「工都板橋」の淵源）
- 基礎物理学の発展
- 日本の科学技術の発展を担う研究者の育成と輩出

未来への産業の発展・人材の育成に挑む

## 第2章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想

### (1) 基本理念・基本コンセプト

第1章(4)本構想・計画の方向性を導くストーリーより、「研究のバトンを未来へ継ぎ・つなげる」「未来への産業の発展・人材の育成に挑む」という視点を導きました。

この視点を踏まえて本構想・計画を策定することとし、以下のとおり産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプトを定めます。

#### 産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプト

##### 基本理念

当地の歴史に紐づく区産業の発展や研究の軌跡の発信と体験を通じて  
板橋の産業ブランド\*5を向上させるとともに  
次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点とする

##### 基本 コンセプト

#### — 加賀の歴史が紡ぐ、創造と知の起点 —

- これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来を創造する場所
- 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく場所
- 「ひと」と「ひと」とのつながりを生み出し、新たな挑戦がはじまる場所

いたばし産業見本市ワークショップ、  
史跡公園ツアーなどの写真を掲載

\*5 板橋の産業ブランド

板橋区産業全体で醸成するブランド。「板橋区は歴史に紐づいて産業が発展・集積し、区民生活を支えてきている」ことや「板橋区ではひととひとがつながることで産業が成長していく」等の産業全体の魅力や価値を発信することで、区内外の認知度向上や区内に訪れる新たなひとの動きをつくるもの。

## (2) 方向性・主要機能

第1章より、「ものづくりの板橋」を形作る原動力の1つとなった**産業の側面**、江戸時代から近代まで続く加賀藩下屋敷の地で紡いできた**文化と歴史の側面**、日本の先進的な科学技術の研究者を育成・輩出してきた**教育の側面**において、**着目すべき歴史的背景**を捉えています。

また、基本理念と基本コンセプトを踏まえて、これまで紡いできたものを**継ぎ・守る**とともに、**新たな挑戦・創造**に取り組んでいくことが重要です。

整備する旧板橋分所の建造物の歴史的価値を未来に向けて保存していくということを大前提としつつ、以下のとおり産業ミュージアムの方向性・主要機能を定めます。

### 産業ミュージアムの方向性・主要機能

<p>着目する 歴史的背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板橋区産業が発展する契機の一つとなった「工都板橋」の淵源</li> <li>近世から現代に至るまで最先端の研究・実用化が行われた地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加賀藩前田家の下屋敷の一部であった地</li> <li>近代的な火薬研究所時代の痕跡</li> <li>理研研究者が研究を重ねた足跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノーベル物理学賞受賞者の研究室</li> <li>先進的な科学技術研究が展開された日本物理学界の中心地</li> </ul>
<p>3つの 方向性</p>	<p>① 産業の創造</p> <p>ものづくりを中心とした板橋区の研究・創造の起点の場として、区産業の価値を高めていく</p>	<p>② 歴史・文化の発信</p> <p>日本の産業や科学技術の発展に貢献したこの地の歴史に触れる場をつくることで、シビックプライドの醸成を図っていく</p>	<p>③ 教育の深化</p> <p>科学技術の研究の面白さと難しさを自由な発想や実践的な学びで体験し、将来の科学技術を支える人材を育てていく</p>
<p>主要機能</p>	<p>ものづくり板橋の産業ブランドを向上させる機能</p>	<p>活用する建造物の文化財的価値を守りながら、歴史を発信する機能</p>	<p>次世代の理系・ものづくり人材の育成機能</p>